育てあい、育ちあう

広報　NO３

わかば

２０２０年秋号

２０２０年１１月１６日発行

社会福祉法人わかば会

盛岡市西松園３丁目１９－６
発行責任者　鈴木浩太郎
☎：０１９－６６１－３１０３
fax：０１９－６６２－５１２９
http//www.wakaba-kai.or.jp

法人の理念

＊　社会福祉法人わかば会は、子どもの人権を尊重し保護者と協力しながらその健やかな成長のために尽くすとともに、保護者が安心して子どもを預け働ける環境づくりに努めます。

＊　未来の主人公となる子ども達の権利を尊重し、豊かな乳幼児期を保障することを基本とし、保護者の皆様と一緒に保育を創っていくことを大切にしてまいります。

＊　子どもが本来持っている能力を引出し、豊かな感性を育み、一人ひとりが仲間の中でゆっくりじっくりと自分を育てていけるような保育環境づくりに努めます。

＊　子育て支援や地域福祉の向上を目指し、地域の子育ての拠点となるよう努めます。

法人運営施設

■わかば保育園　■本宮保育園　■うえだ保育園
■北松園風の子保育園
■がんちゃんすくすく保育園
■宇宙学童クラブ　■ 第二宇宙学童クラブ

わかば保育園運動会
オープニングを飾った
年長児による「虎舞」
後は囃子をつとめた４歳児

「コロナ禍」で考える保育環境

全国で新型コロナウイルス感染症が止まらず、第２波・第３波の恐れも出ています。当法人としても、子どもの命と安全を守るために、知恵を集め工夫を凝らしながら最大限リスクを減らすための取り組みを行っています。

手洗い、消毒はもちろん、送迎についても、保護者と保育士、園児との接触を少なくするために室内送迎を見直し、玄関やベランダでの対応としています。

また、職員やそのご家族にもお盆期間中も含めて県外への移動の自粛を要請し、保護者の皆さまにもご協力をお願いしています。

その後、研究用のコロナウイルス用感染抗体検査キット(ＰＣＲ検査とは効果の評価は分かれる)を活用して抗体検査を行い、陰性の場合は勤務につくようにしています。

保育園での保育は、人とのかかわりで成り立っており、そのため３密（密閉、密集、密接）は避けられず、コロナ禍で改めてゆったりと過ごせる環境整備（子ども一人当たりの面積基準の拡大）、職員配置基準の改善など保育条件の抜本的な引き上げこそが求められています。

「自助、共助、公助」が声高に言われていますが、１９４７年につくられた保育の最低基準は、７３年間もそのままに公の責任は棚上げされ、保育も「自己責任」が押しつけられてきたのではないでしょうか。今こそ政治の責任として、子どもの命と安全を守る「公助」こそ急がれています。

法人としては、引き続き社会的基盤としての役割を担える保育園として、一層努力して参りますとともに、保護者・関係者の皆さまのご支援、ご協力をお願い致します。

社会福祉法人わかば会
理事長　鈴木浩太郎

行事紹介

うんどう会　目標めざしがんばった運動会

今年は、2歳児から5歳児までの異年齢で少人数のグループをつくって遊びました。

運動会は、きょうだいグループで入場し、たいようぐみが考えた体操を楽しみ、とってもかわいい姿を見せてくれました。

年長児は、みんなで共通の目標を持ち、頑張ろうと決め取り組みが始まりました。中でも「竹馬」は難しさを感じる子が多くいたのですが、2～3人の子たちが竹馬に乗りながらサッカーを始めると、その姿に刺激を受け「ぼくもわたしもできるようになりたい！」と、みんなでコツを教え合いながら、はじめの一歩をめざしました。

また、年長児は憧れの民舞「虎舞」（1面の写真）に挑戦しました。小さい頃から身近に感じ、太鼓が鳴ると自然に体を動かしていたこどもたち。「虎の動きってどうなっているんだろう？」「気持ちをあわせないとカッコよくならないよ」など、取り組むたびにみんなでどうだったか話し合いもしてきました。

また、今年は虎柄の衣装も身につけたことで、気持ちもいっそう高まり力強い虎舞になりました。

園内は、年長児にあこがれた虎舞ごっこが始まり、特に小さいクラスのこどもたちがかわいい子虎になったつもりで園内を練り歩き、民舞のかけ声とともに虎に見守られながら元気に過ごしています。

（わかば保育園）

わかば保育園・竹のぼり（４歳児）

写真の説明
①風の子保育園
５歳児・オープニングの荒馬
②わかば保育園
５歳児・竹馬サッカー
③本宮保育園
４・５歳児、紅白でつな引き
④うえだ保育園
フィナアーレを飾る紅白リレー

ひめかみ登山　仲間と力をあわせ登った姫神山

三角お山の姫神山をみると「あの山に登るんだよね！」と「てっぺんはとんがってるけどみんなで立てるのかな・・？」「雲を食べてみたい～」などなど、たいようさん（年長児）は期待に胸を膨らませて姫神山（１１３ｍ）登山に挑戦しました。

登山では、はじめに大きな一本杉を見つけると、その大きさに驚き、みんなで手を繋いだ長さと同じ木の太さにまたまた驚きました。３００段以上もあるざんげ坂を登りきると５合目。まだまだ「へっちゃら～」と元気いっぱい。さらに進むと急な山道になり、ゴロゴロの大きな岩も、あちこちに出ている木の根っこもなんのその、足場を確認しつつ登っていきます。

先頭集団は、後ろを振り返り「がんばれ！○○が見えるぞ」と声をかけ、後に続く子どもたちは「今、行くからー大丈夫だよ」と、仲間を思い励まし合いながら登りました。

空が近くなり頂上はもうすぐです。最後の岩場の険しい道を全身を使い、少しずつ進んでいきます。

頂上到着！　そこには雄大な景色がひろがり、同じ高さにみえる岩手山、小さな町並みや風車、岩洞湖などなど感動的な眺めです。

頂上から保育園とのピカピカ交信も大成功。キラッと光るひかりを見つけると大興奮です。

仲間と力を合わせ、励まし合いながら登った姫神登山。達成感に満ちあふれた子どもたちでした。

（北松園風の子保育園）

風の子保育園・一本杉到着（５歳児）

写真の説明
①風の子保育園
岩場も力を入れて登ります。
②本宮保育園
見事２４人全員で頂上征服！！
③わかば保育園
１５人、頂上についたぞー！！
④わかば保育園
クジラ岩、みーつけた！！

ほいくえん

収穫祭　りんご・さつまいも・お米もとれたよ

本宮保育園は、コロナのため半分あきらめていたりんご狩りを長沼りんご園のご協力で実施することができました。

子どもたちは、たわわに実ったりんごの木をみてやる気満々です。りんご園の方から、りんごのもぎかたを丁寧に教えてもらい「アーリージョナ」と「シナノスイーツ」の２種類を収穫しました。

保育園ではもぎたての新鮮なりんごを小さいクラスの子どもたちと味わい、年長児のきりん組は、りんご狩りの体験画を描き、彩色して感動を表現しました。

また、保育園の園庭の田んぼ・畑では、春に植えたお米（あきたこまち）やさつまいも（紅あずま）が収穫を迎えました。きりん組の子どもたちが、鎌で一株ずつ刈り、その様子を小さいクラスの子たちが興味津々と見入っていました。その後、脱穀や籾摺り作業にも挑戦し、新米を味わう日を心待ちにしています。

十月中旬には、さつま芋掘りを行い「紅あずま」を１３９本（19kg）収穫しました。

小さい子たちは、さつま芋の長いつるに大喜びで、つるは、早速、電車ごっこやつな引きの綱に早変わり、楽しそうです。

きりんぐみは、収穫した芋を「あま～くなあ～れ」と陽にあてて、焼き芋会にむけて準備しています。

職員は、つるを干して「クリスマスのリースに」と作品作りにつなげたいと楽しみにしています。

（本宮保育園）

本宮保育園　これにきーめた！（５歳児）

写真の説明
①本宮保育園
５歳児が鎌を使い「あきたこまち」を収穫しました。
②うえだ保育園 岩手大構内の柿をもいできたよー
③わかば保育園　やきいも会
④風の子保育園
大事に育てたさつまいもデッカイゾー

宇宙学童クラブ

今年度は、バザーや市連協行事が新型コロナウィルスの影響により中止になってしまい、大きな行事がなくなっています。

けれども、夏休みにはデイキャンプでイワナつかみや森の散策をしてきました。

そして、この秋、みんなで学童の看板を作ろう！という計画を立て、子ども達でデザインを決め、学童にある木材に１・２・３年生でやすりがけ（看板づくりでやすりがけ）を行ったところです。

この木材を組み合わせ、４・５・６年生に下書きや色を塗ってもらい仕上げていこうとがんばっています。

（ディキャンプでイワナつかみ）

６年生は待ちに待った社会体験旅行！感染対策を行いながら盛岡市内を散策し、うるみ工芸での漆塗り体験やもりおか歴史文化館を見学してくる予定です。

制限のある中で、何ができるかを考えながら学童生活を充実させていきたいと思います。

住所：西松園３－１８－１２
☎：019-662-1113

がんちゃんすくすく保育園

春、夏と移り変わる自然を感じながら大学構内を散歩したり、元気いっぱい遊んで心も体もすくすくと大きくなってきているがんちゃんのお友だち。

今は秋真っ盛り。楽しいことがいっぱいです。さつまいも掘りからの焼いも会、大学の実習地ではじめてのりんご狩り。園庭の畑の大きく育った大根の収穫ももうすぐです。

本宮保育園のきりん組さんとうたでエールを交換（交流）しました。

10月16日には、開園してから初めての姉妹園との交流会がありました。

本宮保育園の年長さん「きりん組」のお友だちがミニ遠足でなんと片道約４キロの道のりを歩いて逢いに来てくれました。

一緒に秋の歌を歌ったり、年長さんからは「大きい木」の歌を披露してもらい、素敵な歌声にあこがれのまなざしを向けていた子どもたちでした。

住所：上田３－１８－１４
☎　：019-601-3822
fax：019-601-3823

全国の仲間とつながったウエブ保育合研

(ウエブ合研で学んだことを壁新聞で報告・わかば保育園)

８月８日、コロナ感染症で第52回全国保育団体合同研究集会(合研集会)がウエブ上で開かれました。

開催予定だった福島県と各地を中継でつなぎ、子どもを守り育てる保育の役割を語り会いました。

ウエブ合研は、コロナ禍という未知の事態に向き合いながら全国各地の保育関係者のがんばりに励まされ、同時に子どもの命を守り発達を保障する保育の基準の引き上げが共通の課題になりました。

わかば会の各保育園の職員もそれぞれ参加しました。

保育合研集会って？

１９６９年８月、日本の平和と民主主義を守り、子どもたちを大切に育てることを願う保育や子育てにかかわる人たちによって誕生。こども、保護者保育者の権利が保障され、生活にねざし生活を変える保育の創造と、そのために必要な条件整備・制度の実現をめざして毎年開催されています。

わかば会の動き

＊うえだ保育園庭整備が完了

春から取り掛かっていた園庭工事が7月末に完了。陽当たりの良い場所に大きな畑と田んぼ、その隣に泥んこ池と藤棚、大きな築山ができました。

0.1歳児クラスから直接出入りでき、遊べる中庭も完成しました。

＊盛岡市から職員全員にプレミアム商品券

盛岡市は、コロナ禍の中で保育を継続している保育施設職員に慰労金として、プレミアム商品券(一人１２、０００円)を給付。わかば会は１３８人が対象になりました。

＊職員採用試験(１０月１０日)を行いました。

引き続き職員募集しています。詳しくはわかば保育園までご連絡ください。(☎０１９－６６１－３１０３)

＊コロナウイルス抗体検査キットを活用

県内でもコロナウイルス感染症(１１月１６日現在７５名)が確認され、わかば会としても感染拡大を防ぐために県外への移動の際は抗体検査簡易キットを活用しています。検査の結果、陰性の場合は通常勤務になります。

同居のご家族の方にも協力をお願いしております。

「キット」は保育園で準備しています。

給食室　保育園で人気のおやつ

スイートポテト　作り方

材料（１０個分）
- さつまいも…４００g
- バター　…１５g
- 卵　…２０g
- 牛乳　…５０ml
- 砂糖　…２０g

①さつまいもは皮をむいて茹でる。
②竹串が刺さるようになったら湯を切り、さつまいもをつぶす。
③②にバター、砂糖、卵、牛乳を加え混ぜる。
④形をととのえ表面に卵黄を塗り、２００℃で５～６分焼いて完成。

※ポイント
- 表面に卵黄を塗ると照りと焦げ目ができます。
- 形は丸や細長くしても芋の形にしてもかわいいです。

あとがき

コロナ禍の中で保育園の最低基準（保育士配置基準等）の貧弱さが浮き彫りになりました。

９月市議会一般質問で、三田村あみこ議員が取り上げたこともあり、市は10月の広報で保育士の配置基準について広く市民の意見を募集しました。

(うえだ保育園玄関に掲示・意見募集の訴え)

うえだ保育園は、保護者会、職場の労働組合とタッグを組み意見集約に取り組み、30件を超える意見を取りまとめました。

最も多かったのは、73年間(１９４７年制定)全く変わっていない基準に驚き、小学校教員配置と比較しても少ない保育士の配置基準の大幅改正を求めること、コロナ禍での保育士の業務過多の改善を求める意見でした。

コロナ禍で「通常」の保育ができないもどかしさの中で、不安を感じる保護者も多かったことと思います。

このたびの意見集約は、子育て・保育を支えるつながりが、より強く豊かになったことを示したのではないでしょうか。　(礼)

シリーズ　わかばの保育②

2、産休明け・長時間・支援児保育の始まり

１９８１年の開園当初から産休明け保育・夜７時までの長時間保育、支援児保育と理想を掲げてスタートしたものの、現実の保育は大変なものでした。

開園当初から「子どもの生活リズムづくり」の大切さを謳っていたこと、さらには、土曜保育は正午までが一般的だった時に、普通保育を呼びかけたことも保育士にとっては相当な負担になりました。

当時、職員の休憩室はなく、子どもたちと同じ場所で食事、昼寝をさせながらお茶を飲むという労働環境でした。この厳しい環境を打開するために、子どもの様子や保育方法、職員配置や労働環境など、徹底的に話し合いました。

①初めての産休明けからの０歳児保育ー当時は、産休明けの０歳児保育を行っている園は珍しく、定員90人中０歳児は６人で、保育室は２階の畳敷きの部屋(現職員休憩室)で陽ざしがたっぷり入りました。

保育目標は、「可能なかぎり母乳で育てる」「外気や日光にふれ丈夫な身体づくり」「発達にそった遊び」「子ども同士の共感関係を大事にする」としました。

○母乳育児
当時、「ミルクの方が良く育つ」という風潮や手軽さもあり、ミルクが普及しているように感じました。そんな中、母乳はアレルギーが生じにくい、赤ちゃんの胃への負担が少ないことなどから「できるだけ母乳で」の保育を進めました。

○早寝早起きの「生活リズム」づくり
○布おむつで快、不快を感じる力
働きながらの子育ての厳しさを承知の上で、布おむつの利点を説明し積極的な利用を進めました。

○機械音より柔らかな肉声と楽しい遊び(わらべ歌・歌遊び・絵本の読み聞かせ)に努めました。

○赤ちゃんも自然探索・友だちと一緒に共感しながら育つ
座位が安定した０歳児には、草や花、水や雪に触れる体験を多く取り入れ、これらの体験は共感関係が高まる絶好の機会となりました。

２～３か月の赤ちやんでも腹這いになりお互いを感じられる態勢(クローバー保育)をとると、隣の赤ちゃんに手をのばし、触ったり声を出してお話しするような姿が出てきます。

「わかばの保育」より抜粋